

早稲田大学栗山ゼミナールの皆さんが来訪 「世界自然遺産登録を巡る現状」を学習

8月20日（金）に、早稲田大学政治経済学部栗山ゼミナールの学生6名の皆さんが、「世界自然遺産登録に向けた知床の取り組み状況」について学習するため来訪されました。

午後2時過ぎに皆さんがセンターに到着すると、2階のセミナー室において、所長及び斜里町役場環境保全課村上さんから、①知床の観光客の現状、②野生動物保護の現状、③地元住民や関係団体などとの連携の状況などについて説明しました。中には知床の現状と反対の質問もありましたが、こうした質問に対しては現状を説明し認識を改めてもらいました。最後に「詳しい話を聞くことができたので、明日の現地ガイドの話もよりわかると思います」とお礼の言葉があり、一同はウトロの宿泊先に向かいました。



早大の皆さん

北海道教育大学地域環境学研究室の皆さんが来訪 「知床の森林生態系」を学習

9月3日（金）に、北海道教育大学岩見沢校地域環境学研究室の武田助教授と学生7名の皆さんが、「知床の森林生態系」について学習するため来訪されました。

午後1時から、2階のセミナー室において、所長から①知床森林センターの概要、②知床森林生態系保護地域の概要、③知床が世界自然遺産の推薦に至った経過などについて説明しました。学生さんからは、海岸線のゴミの状況、岬地区の移入種問題、世界自然遺産になった場合、入り込み者に対する規制が現状より厳しくなるのかなどについて質問がありました。



北教大の皆さん

羅臼湖探訪 修学旅行生が知床の大自然を堪能

9月27日（月）に、群馬県立太田高等学校の皆さん15名が修学旅行で知床を訪れました。

ダケカンバやナナカマドが色づき始めた羅臼湖への散策路を周辺の樹木や高山植物の実などを観察しながら、3時間ほどの散策を終えました。足元の状態に気を配りながらの苦勞が多いトレッキングでした。



まもなく羅臼湖に着きます



北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



（写真：コケモモ）

知床は今

知床はまれにない暑い夏に見舞われましたが、お盆を過ぎ夏の暑さが嘘のように涼しくなりました。今年は大形の台風が北海道に上陸しましたが知床は被害が少なく、知床連山の山々では、紅葉が始まってきました。

これからイタヤカエデの葉やナナカマドの実が赤く色づいてきて、段々ときれいになっていきます。

鮭や鱒も暑い夏の影響で例年より遡上が遅れましたが、水産加工場や漁船は忙しく稼働しています。

ヒグマ、エゾシカ、エゾリス、キタキツネなどの動物たちは、冬に向かって食料の蓄えを始めていきます。

知床森林センターではミズナラの堅果結実調査が始まりました。今年台風により、まだ青いドングリの実が調査前から数多く落ちてしまいました。



イソツツジの実

観光地のウトロ地区では、知床五湖の進入禁止が解かれたので全湖を見られるようになり、引き続き多くの観光客が訪れています。

センター周辺の木々の紅葉はもう少し先ですが、秋晴れになると、気持ちよく野外で自然を楽しむことができます。

センター周辺の木々の紅葉はもう少し先ですが、秋晴れになると、気持ちよく野外で自然を楽しむことができます。



まもなく知床連山に
初雪が降ります

第70回森林レクリエーション・in知床

『神秘の羅臼湖と五つの沼巡り』を開催

第70回森林レクリエーション・in知床を8月5日（木）に行いました。

羅臼湖は周囲3.7km、目の前に知西別岳、後ろを振り返れば天頂山が見える山に囲まれた、閑静な隠れた名所です。羅臼湖へ至る遊歩道沿いには大小5つの沼や湿原が点在し、高山植物を観察することができます。

今回は、神秘的な湖・羅臼湖ということから70名もの応募があり、抽選の結果北見市、津別町、斜里町などから25名（男性10名、女性15名）の参加となりました。夏休みなので、小学3年生の女の子と小学1年生の男の子の参加もありました。

今年の知床は例年になく暑い日が多く、この日も朝から快晴で気温も午前9時にはセンターの寒暖計で32℃もありました。

国道から散策路に入ると、階段や木道などが整備されていることに、参加者の皆さんは感心されていました。まず、ダケカンバの特徴について説明しました。里で見る姿と違い、細く曲がりくねっている姿に驚いていました。

二の沼の雪渓はなくなり、その後はチングルマ、エゾコザクラ、ミツバオウレンなどの『花園』になっていました。岩に挟まれながらも咲いているかれんな花々に一同見とれてしまいました。

三の沼では、水面に、羅臼岳の姿が逆さにくっきりと映っていました。職員から、「『逆さ羅臼岳』の全景を見る機会は地元の人でも少なく、月に数回程度である」ことを聞くと、その幸運さに改めて感動していました。

それから沼や湿原を巡り、湿原のなりたちや散策路沿いによく見られるハイマツやウコンウツギの特徴に



雪渓が解けた後に咲く高山植物を観察しています（二の沼）



中間湿原の植生について解説しています（三の沼）

ついて説明しました。

五の沼を過ぎ、知西別岳の麓に広がる羅臼湖の姿が見えると、皆さんの足取りが軽くなったように見受けられました。

展望台で昼食を食べた後、羅臼湖の全景をバックに、記念写真を撮りました。

帰路、途中の沼でルリイトトンボやオオルリボシヤンマのオスとメスが仲良く飛んでいる姿が印象的でした。

羅臼湖を背景に参加者全員で記念撮影しました



IUCNシェパード氏からの書簡などを説明

—今年度第2回地域連絡会議を開催—

9月24日（金）に、「知床世界自然遺産候補地域連絡会議」が羅臼町商工会館で開催されました。地域連絡会議とは、世界自然遺産候補地“知床”の適正な管理のあり方を検討するため、昨年10月に設置されたものであり、通算6回目の開催となります。

席上、環境省の担当者から、8月20日に届いたシェパード氏からの書簡について、①推薦地の重要性や陸域部分の管理レベルについて高い評価があったこと、②推薦地の海域部分並びに推薦地内の河川工作物に関するコメントがあり、政府の考えを求



説明に聞き入る出席者

られていることなどの説明がありました。また、これに関し10月22日までに政府として回答を行う予定であること、併せて、IUCNは、日本政府との協議や各分野の専門家から意見を聞いた上で、今年の12月頃にIUCNとしての評価を確定し、来年2月末までにユネスコ世界遺産センターへ報告書を提出する予定であること、更に、その報告書をもとに、来年7月に南アフリカのダーバンで開催される第29回世界遺産委員会で登録の可否が決定される予定であることについても説明がありました。

3万人を超える人々で盛りあがりました

—第25回しれとこ産業まつり—

9月26日（日）に産業まつりが開催され、センターからは①知床の動植物写真ハガキプレゼント、②丸太切り体験、火起こし体験などで盛りあげました。

あいにく朝から曇天で、時より薄日が差す天気でしたが、火起こし体験には、マイギリ式火起こし器の目新しさなども手伝って、最高10人ほどの順番待ちが出るほどの盛況でした。また、おじいさんがお孫さんの手を取りながら一緒にノコギリをひくほほえましい光景が一日中何度となく見受けられました。



お母さんと一緒に女の子も挑戦しました

道議会水産林務委員会来訪

～エゾシカ食害状況などを視察～

8月24日（火）に、北海道議会水産林務委員会（段坂 繁美委員長）の議員及び随行の皆さん18名が、網走支庁管内における水産林務事情などを調査するため、知床に来訪されました。

当日は、国有林に関する説明、案内などのため、所長及び網走南部森林管理署長が同行しました。まず、南部署長から管内概要並びに知床岬地区のエゾシカによる森林被害状況の概要について説明したあと、ウトロ高原にある「イチイ林木遺伝資源保存林」に移動しました。

ここでは、所長から①保護林制度の概要、②当保存林の設定目的、③樹皮食害の状況及び防除対策などについて説明しました。